

看護管理 第24巻 総目次

2014年(1～12月号)

表示は、著者名：題名、号数、掲載ページ。

特集

「対話」が現場を変える！——ファシリテーター型リーダーシップ(1月号)

中野民夫：ファシリテーター型リーダー——人々の相互作用を促し、自律や創造を育む支援型のリーダーシップ。1, 10-13.

中野民夫、鈴木まり子、浦山絵里：【座談会】スタッフと組織を元気にするためのファシリテーションの心得——主体性・当事者意識を高める対話の技術。1, 14-24.

ファシリテーションをさらに学びたい方のためのブックガイド。1, 25.

浦山絵里：看護現場がいきいきする対話型の場づくり——組織をひらくファシリテーション。1, 26-32.

浦山絵里：病院・看護部におけるファシリテーター育成方法——役割別研修のヒント。1, 33-39.

守谷明子、佐川みゆき：【実践報告：埼玉県立病院の取り組み】ファシリテーションスキルを看護現場に活かす——教育・看護実践・看護管理への活用。1, 40-47.

阿部まゆみ、浅場香、吉川恵：【実践報告：名古屋大学ライフトピアサロンの取り組み】在宅療養中のがん体験者の“生きる”を支える対話の場づくり——地域包括緩和ケアの伸展をめざして。1, 48-51.

守屋文貴：参加者のホンネを引き出すための、話し合いの「器」のつくり方——ファシリテーションのスキルを身に着ける。1, 52-59.

病院機能評価の新体系——ケアプロセスの評価を看護に活かす(2月号)

宮本恒彦：大きく変わった病院機能評価が目指すもの——患者にとってメリットのある質改善の実現。2, 118-124.

神保勝也：症例トレース型ケアプロセス調査の実際とは？受審準備はどうすれば？。2, 125-131.

武村雪絵：看護の立場からみたケアプロセス評価の意義。2, 132-136.

宮城とも：【実践報告：那覇市立病院の取り組み】看護部全員参加の十分な準備で達成感ある受審に。2, 137-145.

森三枝子、柳澤美津代：【実践報告：東京慈恵会医科大学附属柏病院の取り組み】受診から退院までのケアプロセス調査で病院が目指す医療を確認。2, 146-152.

古田昌子：【実践報告：富田浜病院の取り組み】チーム一丸となって受審に取り組むことの重要性。2, 153-157.

病院のリソースナースを地域で活用する——在宅療養の質を高める「同行訪問」の取り組み(3月号)

齋藤訓子：病院に期待される地域包括ケアシステムとの連携

——自施設のスタッフを活かし地域とのつながりを。3, 208-214.

平野一美：【運用に向けた体制づくりのヒント：磐田市立総合病院】訪問看護ステーションとの連携強化の実現——認定看護師同行訪問の体制整備のプロセス。3, 215-221.

小坂智恵子：【運用に向けた体制づくりのヒント：多摩南部地域病院】在宅医療を支える医療機関が果たす役割——看護部長がリードする地域とのネットワークづくり。3, 222-228.

中村奈央：新たな看護サービス創出に向けた院内プロジェクトの推進プロセス——地域に求められる医療機関をめざして。3, 229-235.

森佳子、浅田由利恵：【実践報告：砂川市立病院の取り組み】地域の在宅療養を中核的に支える認定看護師——施設を超えた地域医療チームづくりをめざして。3, 237-243.

井上栄子、安部淳子、三浦千賀：【実践報告：米沢市立病院の取り組み】看看連携を基盤とする包括的な退院支援と在宅療養支援——同一日同行訪問の積極的活用。3, 244-252.

久米淳子、岸岡陽子：【実践報告：常滑市民病院の取り組み】診療報酬未加算分野における先進的な取り組み——摂食・嚥下障害看護認定看護師の地域における活動。3, 253-258.

新任看護師長必読！——育て上手のリーダーシップ スタッフの学びを促すリフレクティブな病棟づくり(4月号)

東めぐみ、松永五智子、鈴木幸代、中山みどり、石塚綾子：看護実践をリフレクションし、実践の意味や価値に気づき、新たな看護を創造する——個人と組織の成長を目指して。4, 318-324.

松尾睦：「育て上手の看護師長」から学ぶ職場学習のマネジメント——224人の看護師長への調査研究から紐解く“人が育つ”病棟のありよう。4, 325-335.

松尾睦：職場学習を促すリフレクションの実践事例。4, 336-340.

別府千恵：【コラム：新しく看護師長になったあなたへのメッセージ】主任とは異なる、「看護師長による」人材育成とは。4, 341.

松浦正子、三木珠美、室井佳奈：【実践報告：神戸大学医学部附属病院の取り組み】経験学習、リフレクションを重視した人材育成計画——「キャリアシステム・神戸 REED プラン」。4, 342-348.

鈴木紀子：【コラム：新しく看護師長になったあなたへのメッセージ】「人を育てる」とは、前向きに生きる動機づけをすること。4, 349.

高橋久美, 清水奈緒美, 稲本ゆかり, 及川千賀子, 久保田顕子, 渡邊眞理:【実践報告: 神奈川県立がんセンターの取り組み】互いの実践から気づきを得る取り組み——看護師長間シャドーイング研修. 4, 350-355.

真に効果的なダブルチェック体制とは——与薬インシデント防止に向けて(5月号)

田中健次:【インタビュー】ダブルチェックの方法とその選択——有効性と効率性を探るシステム安全学の研究から. 5, 426-431.

大島誠, 荒井嗣美, 秋元安代:【実践報告: 国保旭中央病院の取り組み】注射薬ダブルチェックトレーニングの有効性とその活用. 5, 432-439.

山崎香織:【実践報告: 広島大学病院の取り組み】院内の医療安全文化としてダブルチェックを定着させるために. 5, 440-444.

石川雅彦: ダブルチェックの効果を高める実践的なシステム構築——事例分析からの提言. 5, 445-450.

①新人看護職員研修の質向上に向けて——研修ガイドライン改訂から考える成果と課題(6月号)

熊谷雅美:【インタビュー】新人看護職員研修の質向上に向けて——「新人看護職員研修ガイドライン」改訂から考える. 6, 516-520.

佐々木幾美, 西田朋子:「新人看護職員研修制度」開始後の研修の実態と実施上の課題①——質問紙調査の結果から. 6, 521-526.

西田朋子, 佐々木幾美:「新人看護職員研修制度」開始後の研修の実態と実施上の課題②——中小規模施設への面接調査の結果から. 6, 527-530.

砂田好至子, 春田美代子:【実践報告: 小田原循環器病院の取り組み】小規模病院による新人看護職員教育体制強化の取り組み——さまざまなリソースを活用して. 6, 531-535.

②患者・スタッフの安全を守る院内急変対応システム——施設状況に応じたRRS導入と運用のヒント(6月号)

藤谷茂樹: 院内急変対応システム(RRS)とはなにか——理想のありかたと現状における課題. 6, 538-542.

安宅一晃, 川口なぎさ:【実践報告: 大阪市立総合医療センターの取り組み】チーム回診を患者スクリーニングとスタッフ教育の場として活用する. 6, 543-549.

小池朋孝:【Q & A で解説!】院内急変対応システム「RRS」導入と運用のコツ——これから始めようとする病院/うまく稼働できていない病院へのヒント. 6, 550-551.

森安恵実, 坂下智珠子:【実践報告: 北里大学病院の取り組み】呼吸療法サポートチーム兼任方式による取り組み. 6, 552-558.

竜トシ子, 藤野智子:【実践報告: 聖マリアンナ医科大学病院の取り組み】メディカルエマージェンシーチーム兼任方式による取り組み. 6, 559-565.

佐々木愛, 香西ひろみ:【実践報告: 東京ベイ・浦安市川医療センターの取り組み】スタッフ教育を基盤に施設全体への一括導入を目指す. 6, 566-570.

安宅一晃:【コラム】RRSとPACU——術後急変に備えるセーフティネットの必要性. 6, 570.

安宅一晃:【本特集のまとめ】RRSのさらなる普及と定着を願って——ジェネラリストとしての“気づき”ができる医療者を目指して. 6, 571-572.

安宅一晃:【コラム】病院機能評価とRRS——医療安全システムとしての確立に向けてRRSへの評価に期待. 6, 572.

いよいよ制度化!——「特定行為に係る看護師」研修制度の活用に向けて(7月号)

島田陽子:【Q & A】特定行為に係る看護師の研修制度について. 7, 626-629.

高橋久美子:【インタビュー】試行事業の経験から考える看護管理者の役割——特定行為に係る看護師の研修制度への対応のヒント. 7, 630-633.

冷水育:【実践報告: 試行事業対象看護師の取り組み】クリティカル領域のチーム医療を円滑に進めるために. 7, 634-639.

木澤晃代:【実践報告: 試行事業対象看護師の取り組み】救急領域での活動の成果と今後の組織的議論への期待. 7, 640-643.

平野優:【実践報告: 試行事業対象看護師の取り組み】総合的な視点を養い, 高齢者を支える看護を目指す——認知度の向上から始まる活用の拡大. 7, 644-648.

有賀徹:【インタビュー】看護業務検討ワーキンググループの議論を終えて. 7, 649.

あなたの病院はどうしますか?——2014年診療報酬改定が迫る「病床機能選択」「早期在宅復帰」のインパクト(8月号)

福井トシ子, 遠見公雄, 平野一美, 熊谷雅美:【座談会】診療報酬改定から再考する自施設の役割——施設基準厳格化が迫る「選択と集中」. 8, 726-735.

長英一郎:【インタビュー】2014年診療報酬改定が看護現場に与える影響と病棟再編策——「在宅復帰率」「重症度, 医療・看護必要度」「平均在院日数」が鍵に. 8, 736-742.

馬場悦子:【横浜中央病院の取り組み】中規模急性期病院として地域包括ケア病棟の開設を目指す. 8, 743-750.

奥野佐千子, 中島すま子:【長浜赤十字病院の取り組み】意思決定に必要なデータを基に, 適正な病棟再編を検討するプロセス. 8, 751-755.

寺前八重, 若林美香代, 甲田由美子, 長谷川美智子:【京都市民医連中央病院の取り組み】「患者の生活を支える視点」を重視した病棟・地域再編——在宅との連携を基盤に, 質の高い在宅復帰支援を目指す. 8, 756-762.

武藤正樹:【解説】病床機能報告制度と地域医療ビジョン——法律改正に伴う2025年へのロードマップ. 8, 763-767.

新しい看護提供方式PNSを組織文化に——見えてきたアウトカムとパートナーシップ・マインドの育て方(9月号)

橘幸子: PNSの特徴とパートナーシップ・マインド. 9,

820-824.

上山香代子：他施設への「PNS 監査」の視点から——「なんちゃって PNS」にしないための改善点. 9, 825-830.

齊藤仁美, 伊藤幸子, 川端眞由美, 村田美穂：【コラム】なぜばなる！ここまでできる！PNS——福井大学医学部附属病院各病棟の取り組みから. 9, 831-835.

橘幸子, 上山香代子, 黒川美幸, 高山裕喜枝, 齊藤仁美：【座談会】新しい看護提供方式 PNS を組織文化に——福井大学医学部附属病院の 5 年間の成果に学ぶ. 9, 836-843.

秋山智弥, 河合優美子, 下田弘美, 和田山智子, 松下純子, 友澤奈津子：【実践報告：京都大学医学部附属病院の取り組み】7 対 1 看護体制下で「看護の責任を果たす」ために——PNS 導入の経緯とその効果. 9, 844-851.

木田菊恵：【実践報告：徳島大学病院の取り組み】PNS 導入と定着のプロセス——8 部署の取り組みを通じて見えてきたアウトカム. 9, 852-857.

齊藤静子：【実践報告：東京都保健医療公社多摩北部医療センターの取り組み】先行導入の成果と看護師長の役割——固定チームナースから PNS へ. 9, 858-865.

職場適応に困難を抱えるスタッフへの支援—— “こぼれ落ちない”人材育成を目指して(10月号)

任和子：【巻頭言】いまの時代に求められる若年スタッフの職場適応支援——多様な個性を活用して、超高齢社会のケアを創造する. 10, 928-931.

川上ちひろ：看護スタッフが感じる「対応が難しい」学習者」とは——対象者への適切な理解と効果的な対応策を考える. 10, 932-939.

内藤知佐子：“対応が難しい”学習者への看護シミュレーション教育——具体的かつ効果的な支援策として. 10, 940-948.

松野友美, 竹中純子, 山田美恵子, 斎田聡一郎：職場適応に困難を抱える新人看護師への包括的支援策——京大病院の組織的取り組みの成果から. 10, 949-959.

栗原美穂：支援者の役割を明確化した新人看護師教育体制の再構築——“こぼれ落ちない人材育成”を目指して. 10, 960-967.

指導者間の連携で基礎と臨床のギャップを埋める (11月号)

伊藤明子, 石田めぐみ：済生会中和病院と畿央大学の互助連携——病院看護師を 2 年間専従で教員として大学に迎える. 11, 1022-1028.

藤澤なお子, 近藤美知子, 和田幹子, 渡辺加菜子：神奈川県におけるユニフィケーションシステムの組織的運用——病院と学校の学びの共有から教育の質を向上させる. 11, 1029-1036.

村瀬裕子, 小野由季子, 高口みさき, 木下美穂：愛知県の「養成所・病院, 看護技術ジョイント研修」——臨床に即した看護技術教育プログラムを共同で作成. 11, 1037-1044.

小坂智恵子：東京都立看護専門学校運営会議の全体会ワークショップ——多様化する看護学生のありようを理解し、

臨地実習を充実させる. 11, 1045-1050.

決して後悔しない！——新病院プロジェクトの合意形成プロセス(12月号)

岡本和彦：看護部が関わる新病院設計——医療福祉建築の立場から見た合意形成の過程. 12, 1108-1112.

松井和世, 松本ゆかり：【実践報告：伊勢赤十字病院の取り組み】職員が一致団結した「患者, スタッフにやさしい病院」づくり——就労環境改善をケアの質向上につなげる. 12, 1113-1121.

加納江利子：【実践報告：東京都健康長寿医療センターの取り組み】高齢者の特徴を踏まえた新施設建築の合意形成プロセス——感染管理認定看護師としてのエビデンスに基づく提案. 12, 1122-1129.

岡本和彦, 久米淳子, 山田朝夫, 片山涼子：【座談会】市民と医療者の対話で創る新病院——赤字病院が“みんなの病院”として再生するまでの合意形成プロセスとは. 12, 1130-1141.

特別記事

松浦和代, 大野夏代, 田中広美, 神島滋子, 山本真由美, 工藤京子, 多賀昌江, 柏倉大作, 御厩美登里, 中村恵子, 庄子由美, 梅津武蔵：大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援①——札幌市立大学看護学部「往還型研修」とは. 1, 61-69.

多田羅竜平：小児緩和ケアチームにおける多職種協働のあり方. 1, 70-77.

阿久津靖子：看護の現場に必要なとされる解決志向アプローチ——デザイン思考プロセスとフィンランド式リチーミングプログラム. 1, 78-83.

大野夏代, 神島滋子, 多賀昌江, 松浦和代, 田中広美, 山本真由美, 工藤京子, 柏倉大作, 御厩美登里, 中村恵子, 石井奈奈：大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援②——卒後 2 年目までのシャトル研修. 2, 159-165.

田中広美, 山本真由美, 工藤京子, 柏倉大作, 大野夏代, 神島滋子, 多賀昌江, 御厩美登里, 松浦和代, 中村恵子, 木村麻美, 沓澤佳代子：大学が主催する新人看護職員の「社会化」支援③——札幌市立大学看護学部による卒業前スキルアップトレーニング. 3, 260-269.

山羽能吏子, 榎原佳子, 谷口朋子, 吉田朱見：認定看護師による「専門看護相談」の取り組み——地域の看護の質向上に資するリソースナース. 3, 270-275.

パメラ・R・ジェフリーズ：米国におけるシミュレーション看護教育の実践——セミナー「臨床実践力を育てる看護のためのシミュレーション教育 教育計画への包括的な導入と指導法を学ぶ」より. 4, 357-364.

網野寛子：英国の看護師労働と免許登録・更新制度. 4, 366-372.

伊藤ひろみ, 岩見喜久子, 村本好孝：小規模病院等看護技術強化研修事業への取り組み——北海道内の看護管理者と行政が連携した教育機会の創出. 5, 452-457.

古田愛子, 加納江利子, 野島陽子, 白取絹恵：認定看護師の活動を可視化するための質評価指標作成の取り組み——

急性期病院における高齢者ケアの質向上を目指して①. 6, 574-577.

村上紀美子：英国・マギーズがんケアリングセンターの相談支援①——心理・社会的側面からがん患者ケアを補完する. 7, 651-655.

加納江利子, 野島陽子, 白取絹恵, 古田愛子：認定看護師の活動を可視化するための質評価指標作成の取り組み——急性期病院における高齢者ケアの質向上を目指して②. 7, 656-663.

村上紀美子：英国・マギーズがんケアリングセンターの相談支援②——患者が自ら歩み出すためのサポートスキル. 8, 769-773.

中村慶子, 金野朋子, 尾神加代子, 永見優美, 菊岡直美：大学を主体に実施した「愛媛県高度看護力開発事業」——地域の看護マネジメント力の均てん化を目指した教育研修. 9, 868-881.

高橋祥友：【インタビュー】自殺対策における看護管理者の役割——自殺が起きたときのスタッフケアを中心に. 10, 970-975.

実践報告

長谷川静子：認知症病棟から精神科急性期治療病棟への転用に伴う取り組み. 2, 166-171.

山口真由美, 安藤絹枝, 黒田初美, 久々宮由布子, 東原清美, 野田真由美：看護助手の業務拡大への取り組み. 12, 1149-1154.

調査報告

高口みさき, 伊藤やよい, 渡邊裕之, 盛田吉子：新人看護職員の職業継続に影響する要因——「二次元レジリエンス要因尺度」を使用した1684名の調査から. 3, 282-288.

駒田安紀, 近藤(有田)恵, 赤澤千春, 中嶋文子, カール・ベッカー：新人看護師のバーンアウトとソーシャルサポート源. 4, 382-386.

短報

津田佳彦, 廣瀬昌博, 塚本篤, 樋口由美子, 江上廣一, 本田順一, 島弘志, 今中雄一：医療安全文化醸成度とLag timeとの関連性に関する検討. 2, 172-175.

TOPICS

林由希：病院が行うシミュレータを使った国家試験対策勉強会. 3, 276-281.

鈴木信行：患者協働の医療をつくる「患医ねっと」のペイシエントサロン. 4, 388-391.

松浦知子, 飯島久子, 山内桂子：患者・市民・医療者が協働した「採血説明文書」のモデルづくり. 5, 466-470.

眞野恵子：「サマースクール藤田」を開催——学童期の子どもを持つ看護師への支援. 5, 471-473.

服部典子, 青木ゆかり, 石井賀洋子, 藤原靖子：看護職の働きたい気持ちをサポート——なごやナースキャリアサポートセンターの活動. 6, 578-583.

佐藤(佐久間)りか：「ケアする者／ケアされる者」の二分

法を超えて——当事者が語る「認知症の語り」ウェブページ. 7, 670-673.

面谷さとみ：地域医療・国際保健の担い手となる看護師を育成する「GLOW看護短期研修プログラム」. 8, 774-777.

柳田邦男：「おとなが読む絵本」連載100回を迎えて——「心の故郷」となる絵本の世界. 9, 912.

武藤清栄：その日の“気分”を知ってメンタルマネジメントに活かす——新しいスタッフケアの形「コンディショニングケア」を開発. 10, 982.

玉田雅美, グレグ美鈴, 林千冬, 八木哉子, 藤本晃代, 山田照代, 尾畑かおる：ベテラン看護師研修の成果と課題——西神戸医療センターの実践から. 11, 1052-1057.

赤塚あさ子：日本赤十字社幹部看護師研修センターにおける中間管理者教育の再編・強化. 11, 1058-1060.

児玉有子, 林薫：被災地の看護師の勤務継続・離職の状況と現在——南相馬市立総合病院の看護師へのインタビューから. 12, 1144-1148.

NA レポート

本誌編集室：第8回医療の質・安全学会学術集会開催. 2, 190.

本誌編集室：第33回日本看護科学学会学術集会開催. 2, 192.

本誌編集室：医学書院ナーシングカフェ「看護管理者のためのコンピテンシー・モデル入門」開催. 4, 387.

本誌編集室：「進化する介護2013 in 東京『胃ろう／経管栄養の正しい理解のために』」開催. 4, 400.

渡辺千鶴：ディベックス・ジャパン主催 国際シンポジウム「病いの語りが医療を変える—患者体験学の創生」開催——患者の語りの二次分析を医療サービスや政策に活用する時代へ. 10, 968.

本誌編集室：日本災害看護学会第16回年次大会開催——災害を経て問い直される看護管理者の役割. 10, 991.

本誌編集室：快適で効率的なナースステーションをつくる——電子カルテシステム更新を契機とする日本海総合病院の取り組み. 12, 1142-1143.

Special advertising page

三鬼達人：【インタビュー】経管栄養法を受ける患者へのQOL向上の取り組み——早期経口摂取への移行と半固形化栄養法について. 7, 675-680.

連載・シリーズ

やじうま宮子の看護管理な日々

宮子あずさ

(94) 迂闊に性別が聞けない時代. 1, 96-97.

(95) 外部講師の講師料. 2, 186-187.

(96) 「できて当たり前」の過酷. 3, 300-301.

(97) 年収500万円の仕事. 4, 406-407.

(98) 指導とパワハラ雑感. 5, 496-497.

(99) 過去の看護への、今の私たちの責任. 6, 608-609.

(100) 誇れる看護. 7, 704-705.

(101) 多忙への対処. 8, 800-801.

- (102)「あたしの税金でパチンコするな！」と怒鳴ってしまいました。 9, 908-909.
- (103) 看護管理に関する私の持論〈上〉. 10, 1004-1005.
- (104) 看護管理に関する私の持論〈中〉. 11, 1088-1089.
- (105) 看護管理に関する私の持論〈下〉. 12, 1182-1183.

おとなが読む絵本 ——

ケアする人、ケアされる人のために

柳田邦男

- (92) ファンタジーの世界を連れてくる雪. 1, 98-99.
- (93) 泣いていたあの子、歌っているかと. 2, 188-189.
- (94) 危機から生まれるいのちを繋ぐ言葉. 3, 302-303.
- (95) 自己否定が自己肯定に変わる瞬間. 4, 408-409.
- (96) 子どもが子ども時代を生きるとは. 5, 498-499.
- (97) 木に見つめられている人間の生涯. 6, 610-611.
- (98) りんごはいつたべられるの? おかあさん. 7, 706-707.
- (99) 夢のなかで遊ぶ子どもの世界. 8, 802-803.
- (100) 子どもが人生への一步を刻むとき. 9, 910-911.
- (101) 少年がはじめて本に魅せられる時. 10, 1006-1007.
- (102) やっぱりじんじんとくる純愛物語. 11, 1090-1091.
- (103) 子どもの豊かな感性に目を. 12, 1184-1185.

うちの師長会・主任会 ——

学習する組織をめざして

- (1) 樋口春美, 丹野久美子, 森河琴美, 三鍋亜希子: 医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院. 1, 1-5.
- (2) 金子八重子, 酒井百合子: 社会福祉法人 三井記念病院. 2, 107-113.
- (3) 寺本辰美: 庄原赤十字病院. 3, 199-203.
- (4) 門間典子, 庄子由美, 大場一英: 国立大学法人 東北大学病院. 4, 309-313.
- (5) 渡邊眞理, 高橋久美: 神奈川県立がんセンター. 5, 417-421.
- (6) 中島すま子, 高野洋子, 小川幸子, 富岡康弘: 長浜赤十字病院. 6, 507-511.
- (7) 間瀬照美, 高松直子, 石田一美, 中川幸枝: 横浜市立みなと赤十字病院. 7, 617-621.
- (8) 植本洋美, 堀畑佐知子, 嶋田ひとみ, 柏田真由: 公益財団法人 天理よろづ相談所病院「憩の家」. 8, 717-721.
- (9) 橘幸子: 福井大学医学部附属病院. 9, 811-815.
- (10) 大林由美子, 河上みどり, 木下美穂: 総合病院 山口赤十字病院. 10, 919-923.
- (11) 白川洋子, 石塚孝子: 筑波大学附属病院. 11, 1013-1017.
- (12) 別府千恵, 鈴木美枝子: 北里大学病院. 12, 1099-1103.

看護事故の舞台裏

長野展久

- (1)「基本的行為」の大切さ. 1, 86-89.
- (2) 鳴り響くモニターのアラームにどう対応していますか?. 2, 182-185.

- (3) 褥瘡の責任を問われるとき. 3, 296-299.
- (4) タオルケットに隠れたパルスオキシメーター. 4, 402-405.
- (5) 残量ゼロの酸素ボンベ. 5, 492-495.
- (6) 入浴介助の盲点 —— 高齢患者の見守りはどこまで必要?. 6, 604-607.
- (7) 紙オムツを食べる認知症患者. 7, 700-703.
- (8) 看護記録への追記は要注意. 8, 796-799.
- (9) その気管孔は塞がないで!. 9, 904-907.
- (10) ダミーのナースコールはご法度?. 10, 1000-1003.
- (11) 採血による神経損傷は不可抗力?. 11, 1084-1087.
- (12) 防腐剤を内服指示!? 思い込みが生んだ悲劇. 12, 1178-1181.

専門看護師の臨床推論⁺

- (23) 塩塚優子, 大生定義, 井部俊子: 高齢認知症末期の緩和ケア —— ケアする看護師の不全感と向き合う. 1, 90-95.
- (24) 渡邊輝子, 大生定義, 井部俊子: 自閉症の子どものプリパレーション —— 柔軟な関わりによる調整. 2, 176-181.
- (25) 荒井知子, 大生定義, 井部俊子: 患者を受け入れることに対するチームの不安に向き合う. 3, 290-294.

看護管理の現場を紐解く ——

ミッションを共有し、ともに価値を創り出す組織を目指して

武村雪絵

- (1) 研究者から管理者へ. 4, 392-395.
- (2) ミッションと自分を結びつける. 5, 474-477.
- (3) 2つの「役割」. 6, 588-591.
- (4) 安心して働く土台づくり①. 7, 682-685.
- (5) 安心して働く土台づくり②評価と報酬. 8, 780-783.
- (6) 評価制度と評価. 9, 888-891.
- (7) 人間観の変遷とマネジメント論の変遷①「合理的経済人としての人間」. 10, 984-987.
- (8) 人間観の変遷とマネジメント論の変遷②「社会的感情人としての人間」. 11, 1066-1069.
- (9) 人間観の変遷とマネジメント論の変遷③「意思決定する人間」. 12, 1160-1163.

マネジメントの基礎を学ぶ ——

はじめての看護管理 7つのエッセンス

太田加世

- (1) 看護管理者としての自分を創る. 4, 396-399.
- (2) マネジメントとは. 5, 482-485.
- (3) 信頼関係を築く. 6, 596-599.
- (4) チームの「やりたい姿」を共有する. 7, 692-695.
- (5) スタッフの「やる気」を引き出す. 8, 788-791.
- (6) スタッフの「やる気」を引き出す②. 9, 896-899.
- (7) スタッフを育てる. 10, 992-995.
- (8) 仕事をしくみ化する. 11, 1076-1079.
- (9) 成果を評価する. 12, 1170-1173.

回り道ナース

松本圭古

- (1) なぜ“彼ら”は看護師を目指すのか. 4, 401.
- (2) それは「看護師」でなくてははいけなかったのか?. 5, 490.
- (3)「社会人経験」は活かせる?. 6, 573.
- (4) 体力の限界?. 7, 708.
- (5) 看護師「ぐらい」なら今からでもなれる?. 8, 804.
- (6) 独り立ち＝一人前?. 9, 913.
- (7) 上だ下だと言いますが.. 10, 983.
- (8) 名譽多数者であって多数者ではない?. 11, 1075.
- (9) 看護の質の向上を考えるなら. 12, 1155.

実践！インストラクショナル・デザイン —— 効果的・効率的・魅力的な人材育成を目指して

浅香えみ子

- (1) インストラクショナル・デザイン (ID) を看護管理に活かす. 5, 478-481.
- (2) インストラクションとは／IDの基盤となる理論. 6, 592-595.
- (3) ニーズ分析 —— 教育目標を明確にするためのニーズアセスメント. 7, 686-690.
- (4) 教育の「ゴール分析」. 8, 784-787.
- (5) 学習者分析・コンテキスト分析. 9, 892-895.
- (6) パフォーマンス目標①. 10, 988-990.
- (7) パフォーマンス目標②. 11, 1070-1074.
- (8) 評価基準の作成. 12, 1164-1168.

新人看護師教育がうまくいく

OJTのコツ —— 「理解」と「支援」から始める

西田朋子

- (1) シャドウイング「私はここにいてもいいの?」. 5, 486-489.
- (2) プリセプターシップ「プリセプターとうまくいかなーい?!」. 6, 600-603.
- (3) “わかる”と“できる”の違いを踏まえた関わり「頭ではわかっているけど、できないんです」. 7, 696-699.
- (4) 現場での“評価”を考える①「できていないところは、だいぶんわかるようになってきたんですけど……」. 8, 792-795.
- (5) 現場での“評価”を考える②「“自己評価が高すぎる”って先輩に思われています」. 9, 900-903.
- (6) 年上の新人の指導を考える「先輩も、私の指導をしづらいみたいです」. 10, 996-999.
- (7) 思うようにできるようにならない新人への関わり「いつまでも先輩から任せてもらえません」. 11, 1080-1083.

- (8) 自ら考え、行動できる新人を育てる「“主体的に”ってむずかしい」. 12, 1174-1177.

看護におけるダイバーシティ・マネジメント —— 男性看護師のキャリア支援と、より働きやすい 就労環境整備に向けて

- (1) 前田貴彦, 福田豊洋, 上杉佑也, 荒木学, 辻本雄大:【座談会】男性看護師当事者が語る“私が目指すキャリア” —— よりよい看護の創造に向けて、多様な価値観を支援する. 4, 374-381.
- (2) 金井Pak 雅子, 稲尾公子, 野口久美子:【座談会】男性看護師に向き合い、個性を伸ばす組織づくり —— 活用のこれまでを振り返る. 5, 458-465.
- (3) 林真樹:男性看護管理者が考える、看護現場で男性が発揮する力. 6, 584-587.
- (4) 塩田美佐代, 村上靖彦:「語りの場」で男性看護師のキャリア構築を考える —— 静岡県看護協会, NTT 東日本伊豆病院の取り組みから. 7, 664-669.
- (5) 小笹雄司:男性看護師の活動広報とキャリア支援を目指すホームページ —— 筑波大学附属病院「つくばナースHOMME」の成果と展望. 9, 884-887.
- (6) 金井Pak 雅子:諸外国における男性看護師の実情. 10, 976-981.
- (7) 古山陽一:男性看護師の育児休業取得から看護の新しい可能性を拓く —— 「パパの育児休業支援センター」の活動から. 11, 1061-1064.
- (8) 矢込進:日本男性看護師会から広がるネットワークとキャリア支援. 12, 1156-1159.

書評

嶋森好子:『産業安全保健ハンドブック』. 3, 295.

撫養真紀子:『スタッフの主体性を高めチームを活性化する! —— 看護のためのポジティブ・マネジメント』. 7, 691.

小山珠美:『ナイチンゲール伝 —— 図説 看護覚え書とともに』. 7, 710-711.

中島美津子:『《看護ワンテーマ BOOK》腰痛のない身体介助術』. 8, 768.

小松美穂子:『看護は私の生き方そのもの』. 8, 778.

福家幸子:『スタッフの主体性を高めチームを活性化する! —— 看護のためのポジティブ・マネジメント』. 9, 883.

DVD 評

酒井富美, 久坂照美:映像で感じ、考える、これからの在宅看護論. 9, 867.